

平成 26 年度第 2 回 海岸工学委員会幹事会議事録

開催日時：平成 27 年 4 月 10 日(金) 14:00～17:00

開催場所：土木学会 2 階 A 会議室（東京都新宿区四谷 1 丁目 外濠公園内）

出席者：以下の 24 名の委員長，副委員長，幹事長，小委員長，主査，副小委員長，委員兼幹事，幹事
佐藤委員長，青木副委員長，佐々木幹事長

森，渡部，川崎，柿沼，岡安の各小委員長，北野主査，田島，越村，荒木，富田，中山の各副小委員長
小笠原，栗山，原田（後藤代理），諏訪，武若，松山，陸田，片山，高木，大村の各委員兼幹事

資料：

- ・平成 26 年度第 2 回海岸工学委員会幹事会の議事（資料 1）
- ・PowerPoint スライド（資料 2）

■審議・報告事項

1. 前回議事録の確認

WEB に公開済み

2. 報告事項（佐々木幹事長）

交替の報告

- ・森屋委員兼幹事→片山委員兼幹事に交替
- ・土論 B 部門合同編集小委員会 原田氏（京大）→内山氏（神戸大）に 6 月から交替
- ・土木学会事務局 岩西氏→松沼氏に交替

議事前報告

- (1) JSCE-PICE ジョイントセミナー（於：フィリピン）実施報告（土木学会助成）（田島副小委員長）
 - ・2014 年 11 月 28 日にフィリピン・ケソン市にて開催
 - ・台風 Haiyan による災害報告だけでなく，広く海岸防災に関する内容
 - ・日本から 7 編，フィリピンから 7 編の発表
- (2) H27 年度重点研究課題助成応募結果（佐々木幹事長）
 - ・減災アセスメント小委員会から応募し，採択された。
- (3) 第 61 回海岸工学講演会報告（北野主査）
 - ・開催報告がされた。

3. 海岸工学論文集第 62 巻応募論文審査について（森小委員長，田島副小委員長，佐々木幹事長）

(1) 第 1 段審査報告

- ・第 1 段審査：登録論文数 381 編（和文：359，英文：15，企画セッション+論文掲載：5（和文のみ），企画セッション発表のみ：2（和文：1，英文：1））
- ・査読者割り当て：幹事会，論文集編集小委員会，その他の各グループから第 2 専門分野まで配慮。
約 18.3 編／人
- ・査読受諾意思確認：幹事 28 名，海岸委 18 名，編集委 22 名，その他 36 名，計 104 名

- ・通常論文および企画セッション（論文あり）は一切区別なく査読し、企画セッション（論文なし）はヘッダーに企画セッションであることを明示して査読した。
- (2) 通常号および CEJ 掲載分の講演会発表枠
- ・通常号からの発表希望 1 編（該当論文 6 編）であった。
 - ・CEJ からの発表希望 0 編（該当論文 9 編）。
- (3) 査読手順について
- ・査読者 5 名、1 人 6 点、専門性を考慮して割り当てる。
 - ・スケジュール
 - 3 月 2 日第 1 段審査の仮依頼
 - 3 月 20 日第 1 段審査の正式依頼
 - 4 月 6 日査読者による採点入力完了(締切は 4/2)
 - 4 月 6~9 日第 1 段審査採択(案)協議
- (4) 企画セッション（論文なし）に投稿されたアブストについて
- ・投稿全 2 編のうち、1 編が和文、1 編が英文であった。投稿要項には和文での説明しかないが、要項を理解して投稿しており、受け付けることとした。
 - ・査読は通常論文と同じルール(6 点満点×5 人)で実施。
 - ・一般論文の査読最低点を十分に上回っており、全て採択のレベルであると判断した。
- (5) 各論文の評価点について
- ・評価点分布は例年と若干異なるが、平均点は 3.71 点で例年とほぼ同様であった。
- (6) 通常論文の査読結果と採択案
- ・17 点以上の論文全て（298 編）を採択する。（幹事会では 299 と報告したが、298 に訂正）
- (7) 今後のスケジュール
- ・5/21（木）第 2 段審査論文提出締切
 - ・5/22（金）論文集編集小委員会、第 2 段査読依頼
 - ・6/04（木）査読報告締切
 - ・6/11（木）査読報告総括締切（主査）
 - ・6/11（木）論文集編集小委員会・小委員長が査読結果を確認
 - ・6/12（金）第 2 段査読結果の一斉通知
 - ・A 判定 →最終原稿を郵送提出（締切 7/1）
 - ・B・C 判定 →最終原稿を郵送提出& web 提出（締切 7/1, web には修正報告書も提出）
主査が再査読（7/9）し、採択が決まれば最終原稿を郵送（締切 7/24）。
 - ・D 判定 →論文集編集小委員会・委員長等が確認のうえ返却
- (8) 査読者の割り当て
- ・幹事会から主査、論文集編集小委員会から副査 1、その他から副査 2 とする。
- (9) 第 2 段査読後の原稿提出について
- ・提出期日
 - 2015 年 7 月 1 日 : 「登載可」の論文提出（学会へ郵送）
 - 2015 年 7 月 1 日 17:00 : 「修正後に判定」の論文の修正原稿提出（web）

・提出物および提出方法

a) 第2段審査時

pdf ファイル → 海岸工学委員会 HP より電子投稿（修正報告書）

b) 第2段審査後（A判定論文）

- ・原稿 pdf ファイル (論文 ID.pdf)
- ・原稿作成時の編集ソフトによるファイル (論文 ID.拡張子)
- ・原稿 text ファイル (論文 ID.txt)
- ・論文提出明細書 (M-論文 ID.csv)
- ・印刷した原稿 (A4)

注) 今年度から図面のファイルは不要となった。

(10) 原稿執筆要領

・J-Stage に掲載される PDF ファイルには、カラー図表が使用可。ファイルサイズは 5MB まで。

(11) 論文集編集の検討課題および意見交換

① 組版、冊子体の廃止、収益の確保

② 英文論文（全文査読）の募集を継続（投稿数 15、昨年は 22）

- ・留学生の投稿を促進（国際化促進対応）。
- ・今年度から第一著者の国籍による制約を廃止。
- ・アブストラクトを日本語で、本論文を英語で書くことを希望する著者がいた
→ 容認（題目の変更は認められないため、アブストの題目は英語である必要がある）
- ・投稿申し込みシステムの英語化に不十分な点があり、引き続き更新する。
- ・英文アブストラクトの投稿要領に曖昧な点があるので、改善することとした。
- ・CEJ への影響→今のところ影響はなさそうであるが、引き続きモニターする。
- ・講演会のセッションは和英混在とする。

③ 組版・著者校正の廃止に伴う影響・効果

- ・第二段査読時の論文フォーマット確認の厳格化？→査読者の負担増？
- ・査読・出版工程の短縮効果
→ アブストラクト提出期限の延長(投稿促進効果?)もしくは J-stage 登録時期の早期化が可能となるので、継続協議。

④ 海岸工学講演会の活性化

- ・昨年に続き企画セッションを継続(投稿数は 7 (論文掲載あり 5, 論文掲載なし 2, うち英文 1)
→ 熱意あるコーディネーターが必要
- ・アブストラクトを概要集として web 公開することとしているが copy transfer を入手していないことへの議論があり、要検討。

(12) 著者負担金と論文集価格

- ・著者負担金は 40,000 円を上限、今年度は著者負担金 35,000 円 + DVD1,000 円の予定。
- ・論文集 DVD のみの販売も予定。
- ・DVD 表紙の著作権についての議論があり、確認することとした。

(13) JSTAGE 作業について

- ・土木学会論文集通常号の BIB 作成, アップロード作業を行う業者と特別号の BIB 作成業者 (アップロードを通常号業者に委託すると, これまでより料金が高くなる) が異なる .
- ・本年度も特別号のみ例年と同一業者で行う (結果的には, 作業料金が安い) .
- ・最終原稿は camera-ready とし, 組版はしない.
- ・csv ファイルから XML ファイルへの変換作業が必要になる.

4. 2015 年度, 2016 年度企画セッションについて

2015 年度 (武若委員兼幹事)

- ・海岸工学分野における気候変動への対応をテーマとし, 2015 年 1 月に海岸工学委員会 web およびメーリングリストで募集を行った.
- ・企画セッション (論文ありおよび論文なし) に投稿された論文で採択見込みのものが 7 編あるため, セッションのキャパシティを考えると, 一般応募論文から企画セッションに選定することは行わない予定.
- ・企画セッションの講演見込み数は 7, 依頼による講演を 1 加えると, 1 講演あたりの発表時間が約 19 分弱となるが, 2 セッションに収めることとした.
- ・英語の応募が 1 編あるが, 使用言語は日本語を原則とすることを確認した.

2016 年度 (佐々木幹事長)

- ・委員会および幹事会メーリングリストでテーマやコーディネータを募集することとした. 委員会で決めることとしているため, cecom 等で広く募集することは行わない.
- ・6 月委員会でおおよそのテーマおよびコーディネータの候補を挙げる方針とする.

5. 海岸工学論文集の将来検討 (H27 年度以降対応) について (北野主査)

- ・冊子体を止めることで, 版下原稿のチェックを行うための時間に余裕が出来るだろう.
- ・版下原稿の質を確保するため, 土木学会提供の Online の Word 組版を利用する手も考えられる.
- ・土木学会論文集通常号のフォーマットに変更し, 組版なしとするので, format チェックが大変かつ重要となる. チェックシートを用意する.
- ・第 2 段審査で format に著しい問題がある論文は副査がしっかりとチェックした上で, 主査から必ず「format に問題がある場合は組版に回す (費用は著者負担) ことを採択の条件」とする旨警告する. 再査読時の主査の判断で問題があれば編集小委員会 (cec) にその旨報告し, 編集小委員会 (cec) が最終判断をする. ただし, 組版に回すことができるのは 20 編程度が限界であるため, 第 2 段審査時の副査による format チェックが従来にも増して重要となる.
- ・土論通常号では Word と LaTeX のサンプルが用意されているが, 両者にはフォントが微妙に異なる等若干の相違がある. この程度の体裁の揺らぎは許容するものとする.
- ・ヘッダー, フッターは著者提出の PDF を加工して付加するため, pdf のセキュリティーレベルを下げて提出してもらう必要がある.
- ・昨年度まで行っていた著者校正は実施しない.

6. 第 62 回海岸工学講演会の準備状況について (佐々木幹事長, 下園幹事代理)

- ・日程: 平成 27 年 11 月 11 日 (水) ~13 日 (金)
- ・会場: タイム 24 ビル (臨海副都心青海 (台場), 新橋駅からゆりかもめで約 20 分)
- ・見学会: 実施しない

- ・懇親会：11月12日(木)，タイム24ビル11階シーガル，懇親会費を5,000円程度に抑える予定。
- ・前日シンポジウム：11月10日(火)17～20時程度，場所：お茶の水の中央大学駿河台記念館(予定，予約は4ヶ月前から)
- ・現在の会場予約時間と発表見込みの論文数を考えると，セッション割りにあまり余裕がなく，企画セッションと並列する通常セッション数を減らすことは困難な状況にある旨説明があった。
- ・協議の結果，会場費増額や開始時間を早めてでも並列通常セッション数を減らすことがよいとの結論となり，多数決により，通常セッション数を2つ減らすこととした。実行委員会および幹事長が具体的な検討をすることとした。

7. 第63回海岸工学講演会の開催(会場など)について(荒木副委員長)

- ・日程：平成28年11月16日(水)～18日(金)
- ・会場：大阪大学中之島センター(北区中之島)
- ・前日シンポジウム，会場：同会場佐治敬三メモリアルホール(第1会場)を予約
- ・見学会：2コースを設定予定
- ・懇親会：11月17日(木)，近隣のホテルで計画中
- ・後援先：国交省近畿地方整備局，大阪府，兵庫県，大阪市，神戸市に依頼予定

8. 第64回海岸工学講演会の開催地について(佐々木幹事長)

- ・過去の開催地の状況について紹介があり，2017年度は北海道・東北エリア，特に北海道を候補とするのが適当である旨確認した。渡部小委員長に北海道開催の方向で検討いただくこととした。
- ・北海道開催の場合は気候を考慮し，開催時期を早めた方がよい可能性があるが，冊子体廃止により編集作業の短縮が期待できるので，対応できるものと考えられる。

9. Coastal Engineering Journal について(渡部小委員長)

- ・Special issue を毎年発行していくため，年間の発行号数を増やす検討をしてきたが，6号体制は現状の論文数では困難であり，5号(奇数)体制はWorld Scientific が認めなかったため，年間4号発行を当面維持することとした。
- ・エディターの交替，任用が提案され承認された。
- ・2015年3月の特集号は，ドイツを中心にFlood risks をテーマに準備している。
- ・2016年3月の特集号は，田島副委員長に台風Haiyan をテーマにお願いしている。
- ・2016年12月は，高橋氏(関西大)に震災5周年記念特集でお願いしている。
→土木学会論文集通常号でも同時期に震災特集をするがCEJの方が早く出版される予定(佐藤委員長)。
- ・Coastal Engineering Award およびJAMSTEC 中西賞の選考手順について提案され承認された。これを受け手Coastal Engineering Award とJAMSTEC 中西賞の受賞候補論文の提案があり，承認された。
- ・CEJ Citation Award について提案があり，承認された。
- ・CEJ への投稿状況について報告があり，2015年は既に48編の投稿があるとの報告があった(2013年の投稿数は42編)。投稿数増にあたり，Editorを増やしたいとのこと。

10. 研究小委員会等の活動について

広報(川崎小委員長)

- ・活動状況について報告がなされた。
- ・各小委員会のページの小委員会名の文字が小さいので，文字を大きくして欲しいとの意見があった。

沿岸域（青木副委員長，佐々木幹事長，重松小委員長代理）

- ・4/18 開催の勉強会の案内があった。
- ・当面は現メンバーで活性化を図っていく方針であるとの報告があった。

津波（富田副小委員長）

- ・活動報告が行われた。また，最終成果を CEJ 特集号（2016 年 12 月）に掲載し，活動を終了するとの報告があった。
- ・次年度から津波小委員会（海岸工学委員会内の小委員会，津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会（仮称））を立ち上げたいとの提案があり，趣旨説明がなされ，承認された。

波動モデル（柿沼小委員長）

- ・活動状況報告が行われ，2 年間の期間延長の提案があり承認された。

減災アセス（岡安小委員長）

- ・活動報告があり，平成 27 年度土木学会重点課題に「津波被害軽減のための事前対策と復旧・復興のための制度設計の検討」のテーマで応募し，採択された旨報告があった（助成額 280 万円）。
- ・土木計画学研究発表会スペシャルセッション，土木学会全国大会研究討論セッションの開催案内があった。

11. 第 51 回，第 52 回水工学に関する夏期研修会（B コース）について（佐々木幹事長，鈴木担当代理）

第 50 回水工学に関する夏季研修会（鈴木氏が担当）

- ・8 月 24 日（月）～8 月 25 日（火）に横浜国立大学で開催される。
- ・B コースは「沿岸域の防災と減災」，A コースは「流域管理における防災と環境の対策技術」
- ・B コースの講師と題目案が紹介され，承認された。

第 52 回水工学に関する夏季研修会

- ・水工学委員会が主担当のため，開催場所が決まり次第，世話役を決めていく。

12. APAC について（佐々木幹事長，佐藤委員長）

- ・第 8 回 APAC2015 が 2015 年 9 月 7 日～10 日 インド工科大学（チェンナイ）で開催される。
- ・Council の水口先生および喜岡先生が APAC2015 の開催後に退任されることが報告され，後任および今後の体制について協議した。
- ・海岸工学委員会との関係が希薄となっている旨問題提起され，今後委員会として支援していく方針を了承し，体制について Council および委員長，幹事長預かりで協議していく旨，了承された。

13. その他

- ・7th CECAR(2016.8.30-9.2, Honolulu), 8th CECAR(2019, Japan)について案内された。（佐藤委員長）
- ・土木学会から海岸工学委員会宛の推薦依頼事項についての扱いについて説明があり，例えば「産官学連携功労者表彰」等の推薦依頼等は，原則として委員会からの推薦とするため，委員会メーリングリストに案内を配信することとし，cecom には配信しない旨確認した。（佐々木幹事長）
- ・次期体制（6 月委員会）における相談役の推挙について提案があり，承認された。（佐々木幹事長）

次回の海岸工学委員会は，2015 年 6 月 9 日（火）14:00～（委員長選挙，H27-28 年度体制スタート）

記録(片山)